



日笠 朝子 議員



録画映像

北海道新幹線トンネル工事

掘削発生土に関する件

問 村山地区受入地モニタリング結果の直近の数値は

答 市長
6月5日採水分のセレンの最高値は0・019mg/L

一般質問

問 新幹線トンネル工事掘削発生土が搬入されている村山地区受入地では、地下水より環境基準値0・01mg/Lを超える濃度のセレンが頻繁に検出されるという深刻な事態が続いております。

以下お伺いします。

(1)村山地区受入地における令和4年11月21日以降の重金属等のモニタリング結果の中で、セレン濃度が最高値、最低値を示した時の検査月日、数値及び直近の数値をお知らせください。

(2)村山地区受入地周辺の井戸水の現在の水質、特に重金属濃度データについてお知らせください。

(3)柳沢地区仮置き場から河川に放流されている水の現在の状況を知らせください。

答 (市長) 経緯としては、令和3年5月

31日に、村山地区受入地で実施されている地下水モニタリング観測孔4箇所のうち一つから、環境基準値を超えるセレンが計測されたと鉄道・運輸機構から報告され、環境基準値の超過が確認された場合の対応としては、北斗市村山地区の発生土受入に関する協定書において、鉄道・運輸機構が実態に即した適切な回避措置を講じるものとなっておりますので、市は、直ちに講ずべき措置の実施を要請し、村山地区受入地への対策土の搬入は一時中断されている状態となっております。

本事案の原因については、受入地内の対策土に触れた雨水や雪解け水が、対策土盛土箇所下部にある堰堤付近のくぼ地に流入し、令和2年11月頃から令和3年6月まで、継続的に滞水した結果、水分の蒸発等によりセレン濃度が上昇した状態で集中的に地下に浸透し、長時間にわたって地下に供給されたことが原因であると報告されています。

その後、鉄道・運輸機構は令和3年6月から10月の間に、滞水の汲み上げ、滯水箇所の堆積物の除去及び埋め戻しなどの対策を実施しましたが、令和4年4月11日採水分の検査結果で再びセレンの環境基準値の超過が確認されています。

また、6月からは観測孔を追加して調査が行われ、地盤中に浸透したセレンが、地下で比較的濃度の高いエリアを形成し、

融雪や降雨などにより水位が変動する地下水に触れることでセレン濃度が上昇しているとの分析結果が報告されています。

本年1月には、「村山地区受入地環境技術検討会」が設置され、セレン濃度の低減に向けた検討が行われ、実施検討とされる対策工の案について、本年5月26日に、市は、報告を受けています。

(1)令和4年11月21日以降にセレンの環境基準値の超過が確認された地点の検査結果のうち、最高値を示したのは、1月16日、1月30日、3月27日採水分に係る検査で、計測値は0・03mg/Lです。

最低値を示したのは、11月28日、12月5日、12月12日採水分に係る検査で、計測値は0・002mg/Lです。

また、直近の6月5日採水分のセレンの最高値は、0・019mg/Lです。

(2)村山地区受入地周辺では、5箇所の井戸において水質検査を実施し、直近で報告された6月5日に採水した井戸水の検査では、環境基準値の超過は確認されておらず、重金属については、鉛、ヒ素、セレンの検査を行い、2箇所では素が環境基準値の10分の1に当たる0・001mg/Lと計測されていますが、その他は、定量下限値0・001mg/L未満となっています。

(3)柳沢仮置き場の状況としては、対策土を仮置きする箇所の原地盤及び周囲の土

側溝には、全て遮水シートが敷かれ、仮置きする対策土も保護シートで覆い、水が浸透しないよう対策がされています。

鉄道・運輸機構からは、基本的に、シート表面を流れた雨水などが土側溝から沈砂池に集まり、濁水処理施設で必要な対応をした上で、万太郎沢川に放流しているとの報告を受けており、沈砂池、濁水処理施設の放流口、河川への放流箇所の上流及び下流において水質検査が行われていますが、これまで基準値の超過は確認されていません。

問 村山地区受入地、柳沢地区仮置き場、その後の処分場について、どのように今、考えているのでしょうか。

答 (副市長) まず最優先で鉄道・運輸機構に対処していただくべきは村山地区受入地の状況の改善であり、見通しをきちんと立てていただきたいと考えています。



車窓からの柳沢地区仮置き場